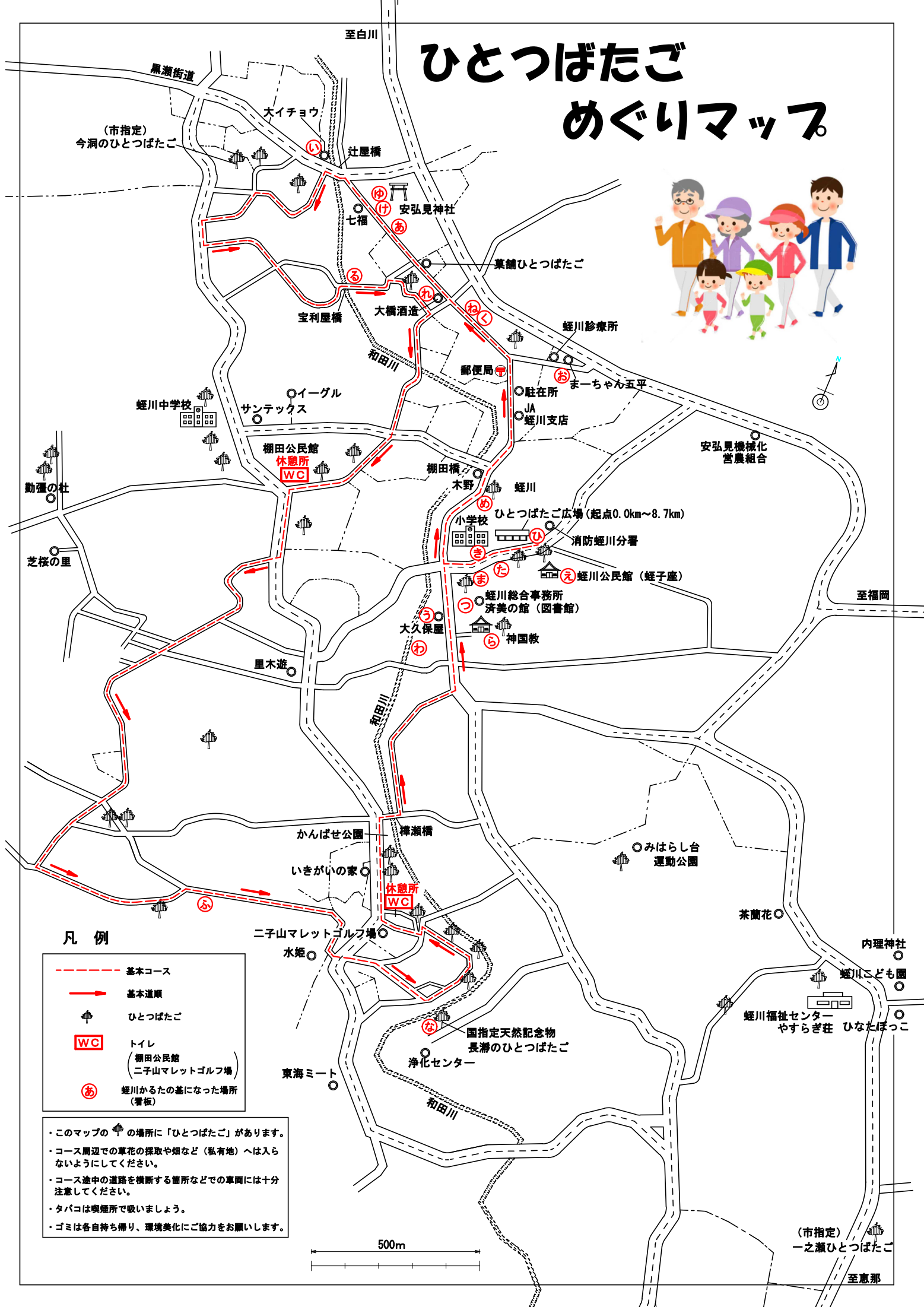


ひとつばたごめぐりマップ



- 凡 例**
- 基本コース (Red dashed line)
 - 基本道順 (Red arrow)
 - ひとつばたご (Maple icon)
 - WC (Toilet icon)
 - トイレ (二子山マレットゴルフ場)
 - 蛭川かるたの基になった場所 (看板) (Maple icon)
- ・このマップの 〇 の場所に「ひとつばたご」があります。
 ・コース周辺での草花の採取や畑など（私有地）へは入らないようにしてください。
 ・コース途中の道路を横断する箇所などでの車両には十分注意してください。
 ・タバコは喫煙所で吸いましょう。
 ・ゴミは各自持ち帰り、環境美化にご協力をお願いします。



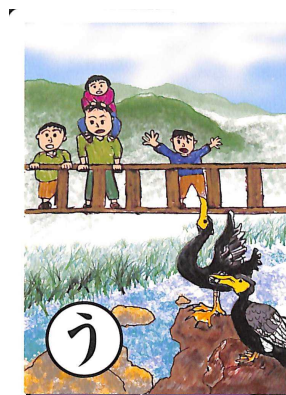
あ
 安弘見の
 社に響く
 杵振り踊り

安弘見神社と杵振り踊り
 明治維新まで牛頭天王社で、一般には天王様の名で呼ばれていた。神仏分離令により、附近の郷名「安弘見」をとって安弘見神社と名づけられた。祭神はスサノオノミコト。
 杵振り踊りは、古くから安弘見神社の例祭で、農作を願う祭りとして受け継がれている。毎年四月十六日に一番近い日曜日に奉納される。県重要無形民俗文化財。



い
 今洞の
 大イチョウ見上げ
 一休み

今洞の大イチョウ
 今洞の辻屋橋を西に渡った所にイチョウの大木がある。昔、長老寺・浄心寺など古い寺があり、その寺の門樹として植えられたという。樹齢は不明だが、蛭川村の指定文化財。越中富山の薬屋がこの木の周りをクルグル廻っていたので狸にでも化かされたのではないかという伝説がある。それ以来みんながこを怖がるようになったという。



う
 鶴が
 いると
 旗巻淵に
 集まる子

旗巻淵
 旗巻淵は、和田川が鳩吹の大久保屋さん裏でよとんで深くなっている所。南朝伝説によると、武士が戦場から帰村する時は、この淵で武器や人馬の戦塵を流して神域に入ることにしたという。別の言い伝えでは、住民が神参りや旅行に出発し、または帰った時に、この淵で身を清めたという。



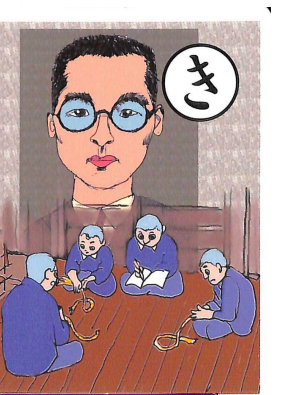
え
 蛭子座に
 子ども歌舞伎の
 声わたる

蛭子座
 蛭川には、今洞と和田両地区共用の白山座があり、田原には八幡座があった。また、中切りの安弘見神社の境内には村の歌舞伎大舞台があった。いずれも常設ではないため、大舞台建設の要望が強くなり、明治三十四年に今の駐在所あたりに蛭子座が出来た。芝居だけではなく、諸会合にも使われたので棟札には倶楽部と書いてあった。



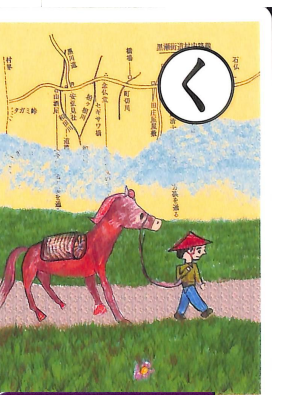
お
 お客さん
 みえる時には
 五平もち

五平もち
 東濃地方、三河地方に伝わる郷土食。昔から新米の出来る頃になると作り、開炉裏を開んで食べ、楽しい家族の団圓の時を持った。五平もちの味は、それぞれの家に秘伝があって、全部違うといつも言いすぎでない。たれば、自家製のたまり(醤油・ゴマ・ピーナツ・くるみ・砂糖などをすり鉢で混ぜ合わせてつくる)。



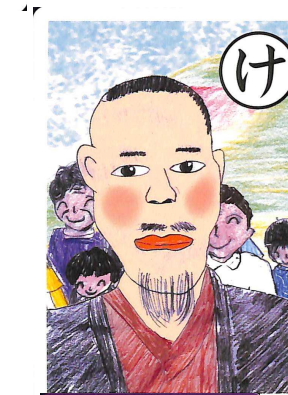
き
 勤強の
 興村教育
 西尾彦朗

西尾彦朗の興村教育
 昭和六年全国的経済恐慌の中で、東濃地方でも生糸の暴落をはじめ産業の衰微によって、農家の収入は半減する悲惨な状況だった。当時の小学校長西尾彦朗は、「勤強義塾」を開塾し、師弟同行、人格と人格の接触交渉を重んじ、労働特に開拓生活により心身の鍛練を主眼とした体験教育を実施した。これを興村教育という。



く
 黒瀬街道
 馬も食んだか
 道の草

黒瀬街道
 苗木城下を發し、並松で飛騨街道と分かれ、藩領の蛭川を横切って、中野方・福地を経て黒瀬(現在の八百津)へ通ずる道のこと。苗木方面や恵比須村に古くからの重要道路だった。物資は伊勢湾から木曾川を帆船で上り、黒瀬に下ろし、そこからは駄馬で運んだ。鉄道の井原駅ができ、明治四十二年に東濃橋がかかること、物資の輸送はこちらが主となって、黒瀬街道は衰えた。



け
 懸命に
 村を興した
 秋三郎

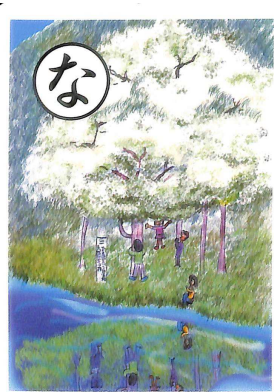
額額秋三郎
 蛭川三傑の一人。村長就任前に村有林の造林計画を建白し、村有林施設計画の基礎を作った。明治三十九年三十三歳で村長に就任。蛭川村役場庁舎、済美図書館、安弘見報徳館の建設などを行った。また東濃橋建設に奔走し架橋にこぎつけた。青年会に呼びかけ報徳社との共催により第一回の敬老会を開催するなど村内各団体の活動を積極的に指導した。



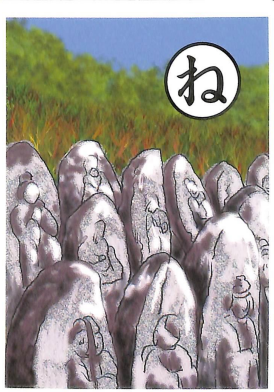
た
多狐塚の
戦陣跡から
時報が鳴る



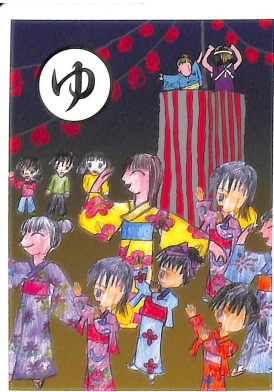
つ
集いの場
学び広がる
済美図書館



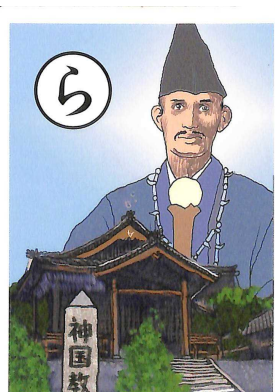
な
長瀬の
水面に映る
ヒトツバタゴ



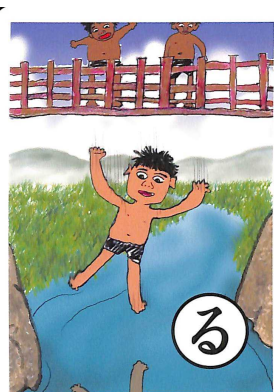
ね
念仏堂
傷は癒えたか
観音様



ゆ
浴衣着て
南朝小唄の
盆踊り



ら
礼拝す
井口丑二の
神国教



る
瑠璃色の
川面にダイブ
宝利屋橋



れ
歴史ある
郷土の地酒
笠置鶴

多狐塚

多狐塚は、高尾塚、蛸塚、多功塚とも書き、役場庁舎の東側にあって、鳩吹と下沢の両地区にまたがっている。全山が花崗岩で出来ており、標高四三九メートルである。その昔、この塚は戦の戦陣で、鐘を鳴らした場所といわれている。今は勤王義塾の精神を引き継ぐようにと、時報を告げるサイレンの場所として多くの人に知られている。

済美図書館（済美記念文庫）

町村立では県下で一番古く創立した公共図書館。明治四十三年、村が優良村として表彰されたのを記念し、その賞金八百円があてられ建てられた。昭和四十七年の小学校改築時に旧建物は解体され、済美記念文庫として公民館の南側に移築した。現在の済美図書館は平成十三年に新築された「済美」とは子孫が父祖のよい行いを受け継ぐという意味。

ヒトツバタゴ

別名を「ナンジャモンジャ」ともいい、学名を「雪の花」という。東アジアに自生するモクセイ科の落葉高木で、朝鮮半島や中国に散在し、日本では長崎県対馬の北端と東濃地方及びその周辺だけに自生している。蛭川では毎年五月の中下旬に満開となり、木一面にまるで雪を積らせたような真白な花を咲かせる。長瀬のヒトツバタゴは国指定天然記念物。

念仏堂の観音様

蛭川には、観音信仰の遺跡が各所に残っている。観世音菩薩は三十三身に化身して庶民を救済すると説かれ、子安観音・子育て観音などがある。蛭川の三十三番観音は三箇所（殿塚の念仏堂、奈良井の庚申堂、田原の善光寺）に現存している。魔仏の時、三十三体の観音像が土中に埋められていたので、皆で掘り起こし、石の台の上

南朝小唄

大正の中ごろ、第三分団（奈良井・下沢）が安弘見神社の余興当番になった時、独創的な歌と踊りを考え、当時の作業唄（いとひき唄）や流行歌を組み合わせ、四季をとり入れた四番からなる蛭川盆踊り唄を作った。その後、永治才次郎と奥田徳浪によって、南朝の史跡などが織り込まれ、蛭川全般的な情景を読んだ十七番に及ぶ歌詞が出来上がった。それで南朝小唄ともいう。

神国教と井口丑二

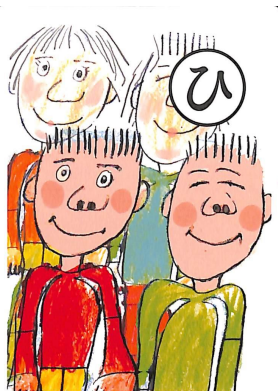
神国教の本部は蛭川村にあり、村民の約八十％が信者である。この教祖が井口丑二である。彼は内務省の地方改良講師として蛭川を度々訪れるうちに、創始しようと多年研究していた新宗教をこの地に運び発祥させた。この教理は、行状十五則（一徳二戒三訓四止五行）を説いている。

宝利屋橋

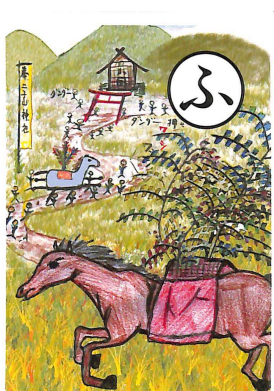
和田川の中切地内に架かる橋。昭和三十四年八月二十六日の大豪雨により木橋であった橋は流され、現在の橋が架った。大岩に水車があり、ここから淵に飛び込む姿は昔からあった。宝利屋はこのあたりの屋号で、牛頭天王の祝部（禰宜）を補佐して祭祀に奉仕する神職の階位を指した呼称「屋がなまて」宝利屋となったものと思われる。

郷土の地酒 笠置鶴

笠置山の清らかな伏流水と地元産米の飛騨はまれから作る辛口の郷土の地酒は、近隣から評価を得ている。江戸時代には数軒あった造り酒屋も、現在は明治四十一年創業と言う酒造会社（大橋酒造）のみが、地酒を醸造している。明治以来の「蛭子正宗」を改め、昭和の初め頃から「笠置鶴」と言う名の酒で販売している。



ひ
蛭川は
みんないい人
おいでんさい



ふ
二子山
花馬みこしが
駆け上がる



ま
正道が
拓き教えた
勤王義校



め
めずらしい
いぼとる神様
こぶつかみ



わ
和田川に
丸く穴あく
鰐穴群

模範村の蛭川村

明治四十三年、蛭川村は、内務省の第一回優良町村を受賞した。日露戦争後の経済の行き詰まり状態で町村財政が困難な中、「勤儉貯蓄・風俗改良・町村税滞納一掃・報徳思想の普及」をスローガンとした改良運動が認められ表彰された。八百円（現在約三千万円）の賞金で、県下二番目の古き（町村立では最古）を誇る済美図書館を建設した。

二子山の花馬みこし

奈良井の二子山神社は愛宕山神社ともいう。この山の東方登山口は昔の伝馬街道にあり、宝暦六年（一七五六）の道標が立っている。この山の名は、二つの峰をなしているから二子山、また愛宕山の地蔵をまつるからあたご山ともいう。奈良井地区の人たちが七月の祭りに花馬を上げていたが、馬がいなくなった今は木馬に花飾りをして山頂まで上げている。

奥田正道

蛭川三傑の一人。平田学を信奉し、苗木藩が勸めた神宗への改革の指導者。明治六年、「勤王義校」設立の立役者で、その後蛭川小学校初代校長となった。また、明治二十二年、町村制実施に当たり、三ヶ村（蛭川・毛呂窪・姫屋）組合村長に推され、同年二年八月再選。同三十年三月三ヶ村組合役場が解かれると、四月から単独村の蛭川村長となった。

こぶつかみ

小学校の北側に「縮摺み様」の小さな祠がある。元はブルの北側にあったが、校舎建築の際第二運動場辺りに移され、さらにまた今の位置に移されたこの社名を別に縮摺と呼ぶ人もあるが、これはもとの社の近くに古い椿の木があったからという。縮摺の名は、この神社がコブやイボを取って下さる「利益がある」という伝説から生まれた。

和田川と鰐穴

和田川は、村の中央部を南へ流れる主要河川。村内域、延長は約九キロメートルで、水量は一日平均五万五千立方メートル。この和田川のあちらこちらに鰐穴があり、その特徴から一つ一つに名前が付けられている。特に鳩吹から下流には、様々な鰐穴が形を呈している。田原の霧が釜には村最大のものがある。